

最近の富士製鐵・製鋼作業について (I)

當社の製鋼工場は三工場あり、共に大型平爐であるが爐容、燃料、或は製造品種、且又立地條件に相違があり、成績も又一様ではない。しかし、最近その成績が向上した點も2、3あるので他社との比較に於ては劣るかも知れないが、その経過を記述することとした。多少なりとも製鋼関係者の御参考に資する事が出来れば望外の喜びである。

工場	混銑爐	傾注式平爐	鋼塊單重
室 蘭	700t	150t 5 基	5t
釜 石	400	100 4 150 1	5
廣 畑	700	150 6	10

(1) 平爐消費燃料の節約

當社の平爐用燃料は工場毎に又、爐によつても異なり、作業上煩雜さを増しているが、現在の情勢では止むを得ない。室蘭製鐵所では、コークス爐瓦斯と、重油又はタール混焼、並に發生爐瓦斯單味、又は同瓦斯とコークス爐瓦斯の併用である。釜石製鐵所では、所内製タールとコークス爐瓦斯の混焼、廣畑製鐵所は、コークス爐瓦斯、高爐瓦斯と重油の混焼、或は重油専焼、又4月からは所内製クレオソートとビッチのカットバック油を重油に代替する試験を行つている。斯様に工場により燃料の種類は種々あり、共通なのはコークス爐瓦斯のみであるが、此も製鐵所により供給量は差違があり、統一方式は取り得ないが、3工場とも夫々燃料方式に検討を加え、燃料使用量については改善されつゝある。

1) コークス爐瓦斯とタール(重油)のバーナー式燃焼法：液體燃料の使用については、釜石では、大正年間、既にスカレドフ氏の指導により、バーナーによる燃焼方式に成功したのであつた。終戦後、第二製鋼の傾注式平爐は、24年11月より再開されたが、昨春以來その消費熱量は、戦前程度回復し、良塊t當り110~120萬Kcalに低下して、今日の日本に於ける最高水準に達したと稱しても差支えないであろう。又歐米のそれに比してなお且つ劣らない成績を示している。(第1表)

第1表 釜石第2製鋼工場の良塊t當消費熱量(單位×10⁴Kcal)

月別	25/4	5	6	7	8	9	10	11	12	26/1	2	3
熱量	116	113	116	107	108	104	115	118	123	132	133	142

同表に於て、12月頃より消費量は増加しているが、スクラップの劣化による影響が漸次顯著となつて來た上、1月の取扱量は、17,000tに達し、裝入機は2台に過ぎないので、裝入時間が著しく延長した爲であつて、4月より増設の1台が完成すれば、再び低下を期待出来よう。バーナー式燃焼法は、室蘭製鐵所に於ても採用し、昨秋より操業に移つてゐるが、未だ所期の効果を擧げるに至つていない。しかし乍ら、同作業所としては、従前に比し、遙に改善された状況に達している。(第2表)

第2表 室蘭製鋼工場に於ける良塊t當り消費熱量 單位×10⁴Kcal

月 別	25/10	11	12	26/1	2	3
バーナー式(1,2號爐)	164	195	180	126	145	126
發生爐瓦斯式(4,5號爐)	182	160	174	138	166	138

備考 1) 12月より1,2號爐バーナー式操業となる。

2) 2號爐は3月に超大修繕を行つたので上表3月分に含れない。

(次號え續く)

(内 川 悟記)

俵前會長八十歲誕生祝賀會記事

前會長東京大學名譽教授俵國一博士は昭和 21 年文化勳章授與の榮を擔はれ、又昭和 23 年喜壽を迎へられたのであるが當時尙一般の情勢が許さなかつたので祝賀會を催すことも出来ず門下生一同非常に遺憾に思つていた。偶々本年 4 月 4 日は先生第 80 回の御誕生に當るので有志協議して質素ながら東大山上會議所に於て祝賀會を開催した。先生は「自分は八十八まで必ず生きるから、その時まで待つてくれ」と斷われたのであるが今まで永年の先生の御薫陶に對し何一つ御恩返しも出来なかつた心苦しさもあつて米壽の祝賀はもつと盛大にすることゝして此度は無理に御許しをいたゞき同志を募つた處、集る者 139 名の珍しい盛況であつた。田中會長の祝辭につゞき先生より下記の如き非常に有益な御挨拶があつた。我々後進の教へられる所少くないので多數の人の希望により本會誌に掲載する次第である。

金子恭輔、村上喜一、廣瀬政治氏等の飛入餘興あり又梅津七藏氏より敬老會を始めることの動議なども出て一同愉快に歡談し先生の一層の御健康を祈つて散會した。

俵先生御挨拶

今日は私が 80 才に達しましたので祝賀會を開かれ、斯く多數の方々が御出席下され盛大なる會を催されたことに誠に有難いことで御座います。私は心から嬉しく存じ御禮申し上げます。私は明治 5 年 2 月に鳥根縣濱田市に生れました。丁度石見地震の後で何んでも地震小屋で生れたと聞きました。家は半潰れて何んでも母は私をお腹に危く柱の下になる所であつたと云うことです。故今村博士は石見地震を講義に出され、私を引用されたと聞いて居ります。私の生年月に就て一つの挿話があります。私の生れた時代は大陰曆でした。所が間もなく大陽曆に改められた。すると私は 4 月 3 日又 4 日に生れたことになります。大學で停年の申合せは 3 月 31 日に滿 60 才に達せし者となつて居ます。従て私は 60 才未滿で老朽その職に堪えずとせられたことであります。それを大學の食堂で雑談しましたら博識の松原行一博士が云はれました、明治幾年か大政官令で舊曆をそのまま新曆に直すという御布令が出で居るとのことでした。

卒業以來 53 年間世の移り變りは眞に隔世の感があります。製鐵業は微々たるもので釜石で 20 甕の高爐が作業して居たのみで、私共小さな機關車が工場内を動いて居るのに驚いた次第です。製鋼工場は皆無でした。單に砂鐵製煉を中國地方で行つて居た位のものでした。

大學も東京に一つで高等學校が漸く各地方に出来る程度でした。大學に於ける設備としましては實驗實習はありましたが、研究用のものは殆んどありません。ピーカーやビペット、ビレットの類迄毎年目錄を見て獨逸に注文して取り寄せるのでした。

私の一生は幸運に恵まれた仕合者であります。高等中學校に 2 度目の試験で入學出来ましたが、若し落第すれば田舎に歸る位の氣持でした。卒業以後 2 年目に早くも留學しまして、歸朝以來ずっと鐵冶金學を擔當して前後 35 年間教職にありました。退職後も所々に顔を出して居り辱知の方々の御世話になり無事に過しました。自分の一つの心得としましては若い方が活動せられるのに邪魔にならぬようにと勉めて居ります。何分にも此の歳になりまして頭は古くなり氣力は減じて閉口しますが、健康上どこにも現に悪いところはありません。晩年を愉快に仕合に暮して居ります。それに今日は最も盛んな會を御催し下された皆様にお目にかゝれる丈でも有難い思いで一杯です。重ねて深く心から御禮を申し上げます。有難うございます。